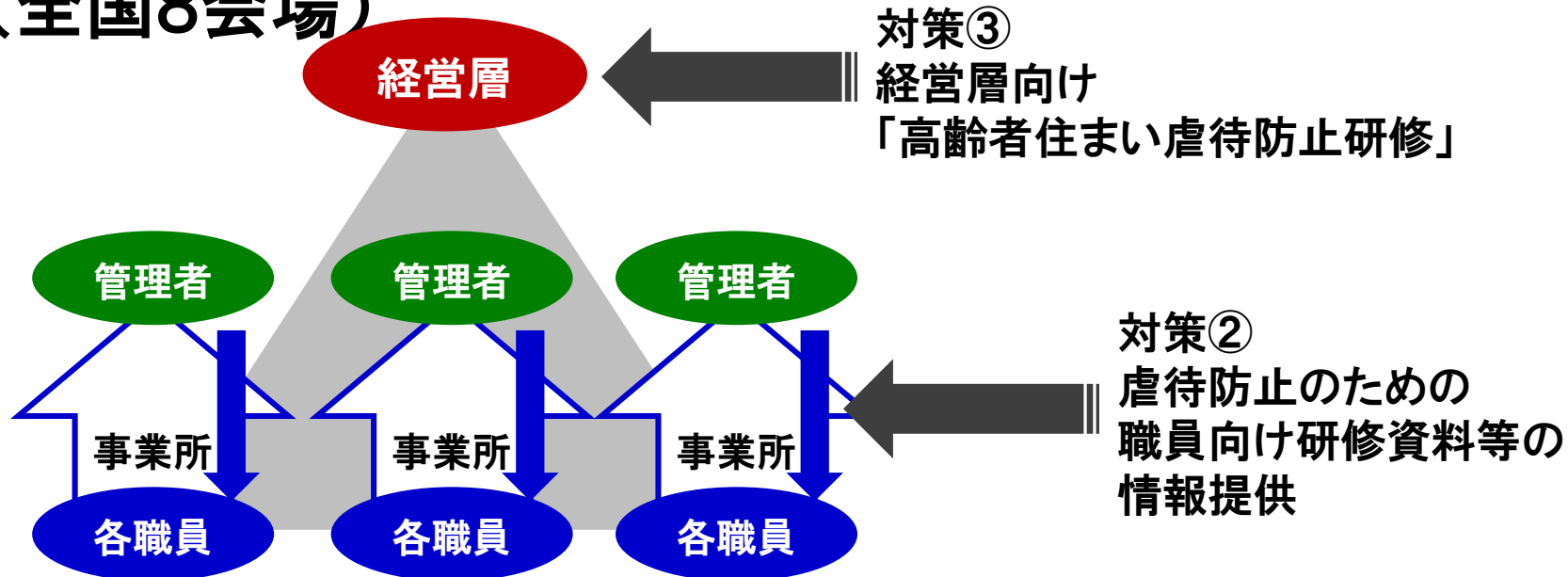


虐待防止の取組みに関する報告

2016年1月

高齢者住まい事業者連合会

- ① 「高齢者住まいにおける虐待防止等のための強化ポイント」の高齢者住まい事業所への発信
- ② 虐待防止のための職員向け研修資料等の情報提供
【四団体ホームページにてダウンロード可能】
- ③ 経営層向け「高齢者住まい虐待防止研修」の開催
(全国8会場)



虐待防止のための職員向け研修資料等の情報提供

1. 虐待防止のための職員向け研修資料（高住連作成）

認知症介護研究・研修仙台センターが作成された「介護現場のための高齢者虐待防止教育システム」を基礎として作成した、高齢者住まい（サ高住・有老）において現場職員を対象とする研修を行う場合の研修資料

2. 「介護現場のための高齢者虐待防止教育システム」

厚労省が推奨する認知症介護研究・研修仙台センターが平成20年度に作成された資料

（1）『高齢者虐待防止学習テキスト』を用いた講義

①高齢者虐待防止法の理解、②高齢者虐待に対する考え方、③高齢者虐待防止の基本の三部構成で、学習者用テキスト、Microsoft Power Pointのスライド（講義用）のほか、「企画・運営者向け教育プログラム」第Ⅱ部に講義の進め方の解説

（2）虐待防止事例演習

学習者に配布する「事例シート」「解説シート」、Microsoft Power Pointのスライド（事例概要・事例解説）のほか、「企画・運営者向け教育プログラム」第Ⅲ部に演習の進め方の解説

（3）ストレスマネジメント

「ストレスマネジメント支援テキスト」のほか、「企画・運営者向け教育プログラム」第Ⅳ部にストレスマネジメントの学習の進め方の解説

高齢者住まい虐待防止研修【札幌会場の例】

日時:11月20日(金)13:30-17:30

場所:TKP札幌駅カンファレンスセンター
カンファレンスルーム3D

主催:高齢者住まい事業者団体連合会

公益社団法人全国有料老人ホーム協会
一般社団法人全国特定施設事業者協議会
一般財団法人サービス付き高齢者向け住宅協会
一般社団法人高齢者住宅推進機構

1. 開会の挨拶(13:30~13:35)

高齢者住まい事業者団体連合会 代表幹事 市原 俊男

2. 「高齢者住まい業界からの虐待の根絶に向けて」(13:35~13:50)

説明:高齢者住まい事業者団体連合会 事務局長 長田 洋

3. 講義1「虐待防止のための組織的取組み」(13:50~15:30)

講師:認知症介護研究・研修仙台センター 吉川 悠貴 主任研究員

【10分休憩】

4. 講義2「認知症ケアの組織的取組み」(15:40~17:20)

講師:日本福祉大学福祉経営学部 綿 祐二 教授

5. アンケート記入

6. 閉会

「高齢者住まい虐待防止研修」のスケジュール・講師

担当	開催地	日程案	会場	講義1(虐待防止)	講義2(認知症ケア)
有老協	札幌	11月20日(金)	TKP (177)	仙台センター 吉川主任研究員	日本福祉大学 福祉経営学部 綿教授
有老協	仙台	11月30日(月)	TKP (150)	仙台センター 吉川主任研究員	仙台センター 吉川主任研究員
有老協	東京	12月14日(月)	ニッショー ホール (シアター742)	仙台センター 加藤センター長	日本福祉大学 福祉経営学部 綿教授
特定協	横浜	12月21日(月)	TKP (216)	日本虐待防止研究・研 修センター 梶川室長	東京都健康長寿医療セン ター研究所 伊東研究員
	かなふく主催 「虐待防止シン ポジウム」	11月25日(水)午後	波止場会館5 階多目的ホー ル(108)	虐待防止の基礎(虐待行為が会社に及ぼす影響など) 日本大学文理学部社会福祉学科 山田祐子教授 横浜弁護士会 小川佳子弁護士	
特定協	名古屋	12月7日(月)	TKP (270)	仙台センター 阿部研究・研修部長	日本福祉大学 福祉経営学部 綿教授
有老協	大阪	12月4日(金)	クレオ大阪 中央ホール (シアター996)	福岡県社会福祉士会福 岡高齢者・障害者虐待 対応チーム 稲吉理事	認知症介護研究・研修東 京センター 小森客員研 究員
特定協	広島	12月1日(火)	TKP (246)	仙台センター 矢吹主任研修研究員	仙台センター 矢吹主任研修研究員
特定協	福岡 ※11:00-16:00 (特定協ブロック会議開催のため)	12月11日(金)	天神ビル (270)	社会医療法人慈薫会 介護老人保健施設大阪 緑ヶ丘 柴尾事務長	日本福祉大学 福祉経営学部 綿教授

■事前申込状況

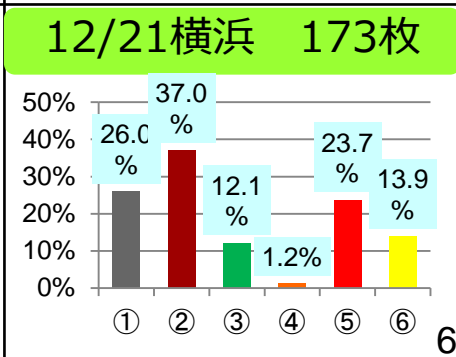
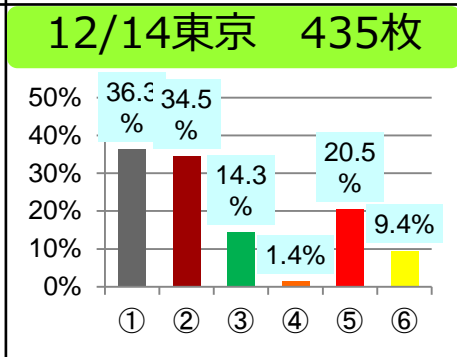
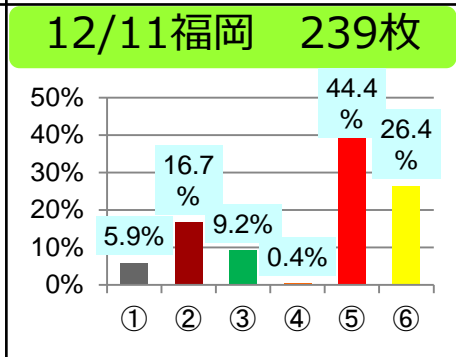
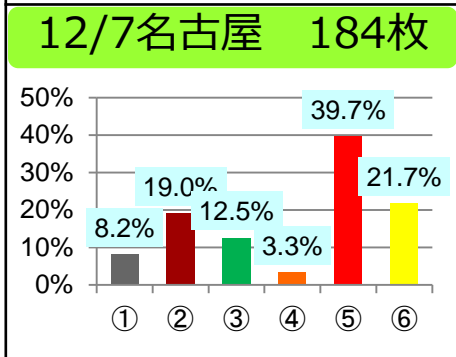
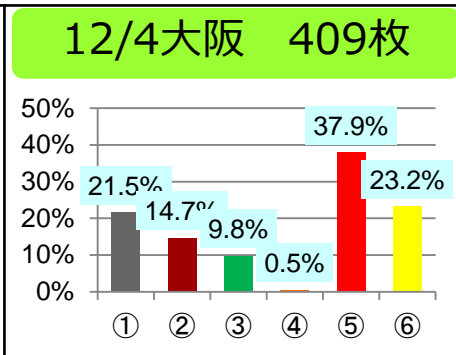
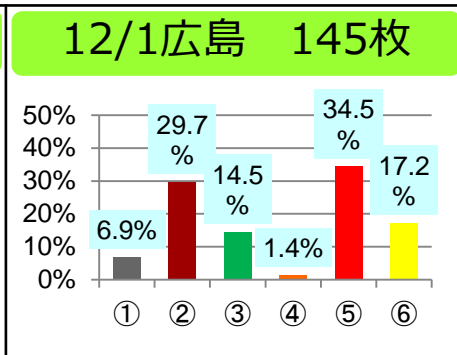
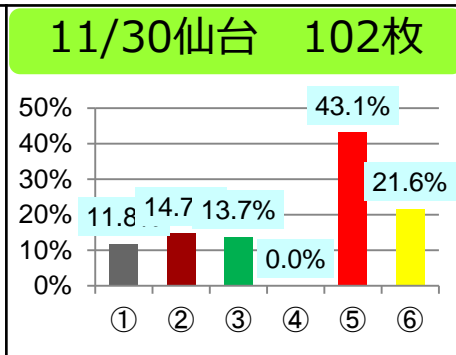
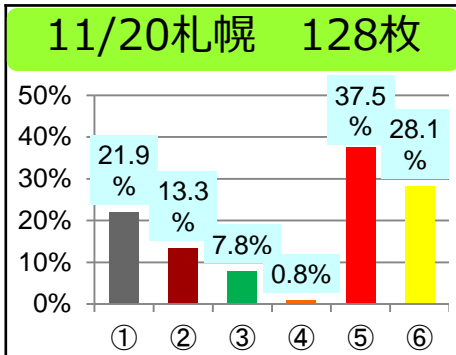
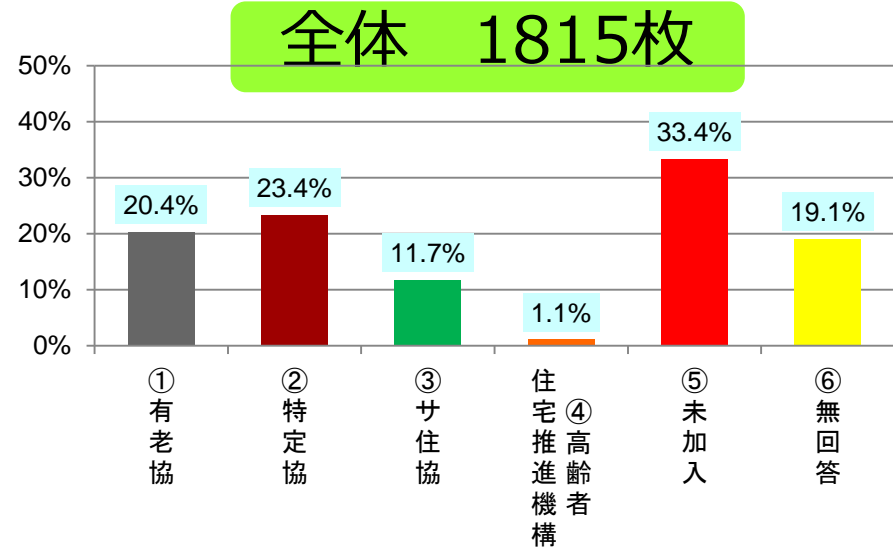
会場	申込者数	うち会員	うち非会員	非会員比率	定員	定員充足率
札幌	165	60	105	63.6%	170	97.1%
仙台	132	52	80	60.6%	150	88.0%
広島	181	87	94	51.9%	220	82.3%
大阪	642	258	384	59.8%	1,000	64.2%
名古屋	243	85	158	65.0%	250	97.2%
福岡	332	113	219	66.0%	250	132.8%
東京	654	461	193	29.5%	700	93.4%
横浜	231	153	78	33.8%	210	110.0%
合計	2,580	1,269	1,311	50.8%	2,950	87.5%

■当日参加実績

会場	参加者数	うち会員	うち非会員	参加率	定員	定員充足率
札幌	152	54	98	92.1%	170	89.4%
仙台	119	45	74	90.2%	150	79.3%
広島	166	82	84	91.7%	220	75.5%
大阪	542	206	336	84.4%	1,000	54.2%
名古屋	206	82	124	84.8%	250	82.4%
福岡	283	95	188	85.2%	250	113.2%
東京	523	367	156	80.0%	700	74.7%
横浜	188	132	56	81.4%	210	89.5%
合計	2,179	1,063	1,116	84.5%	2,950	73.9%

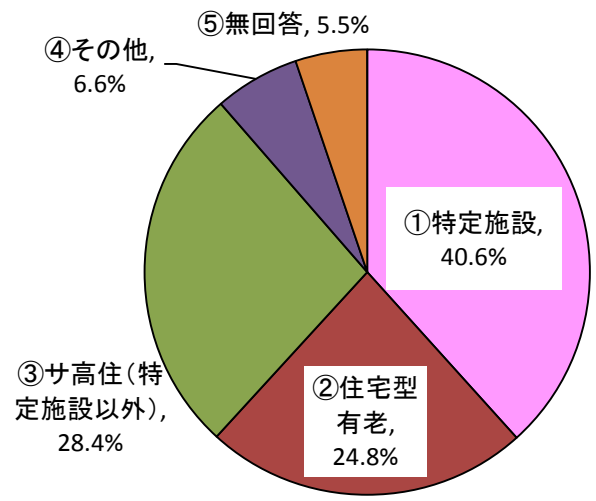
当日アンケート結果 ①参加事業所属性(加入団体)

会場	参加者数	回収枚数	回収率
札幌	152	128	84.2%
仙台	119	102	85.7%
広島	166	145	87.3%
大阪	542	409	75.5%
名古屋	206	184	89.3%
福岡	283	239	84.5%
東京	523	435	83.2%
横浜	188	173	92.0%
合計	2,179	1,815	83.3%

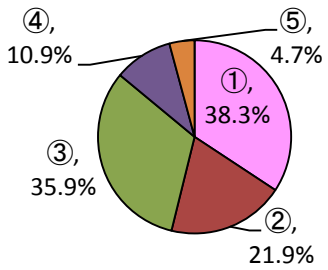


当日アンケート結果 ①参加事業所属性(中心となる事業所)

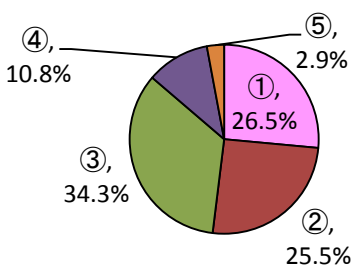
全体 1815枚



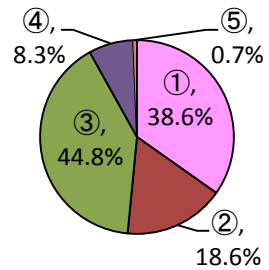
11/20札幌 128枚



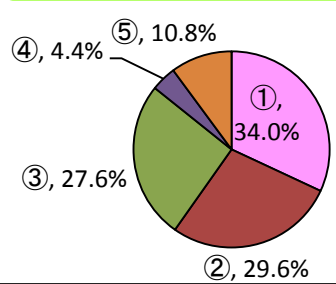
11/30仙台 102枚



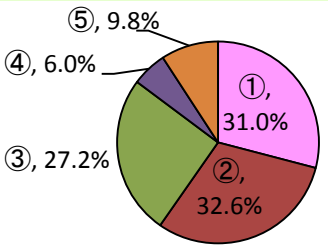
12/1広島 145枚



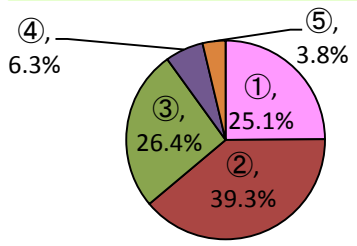
12/4大阪 409枚



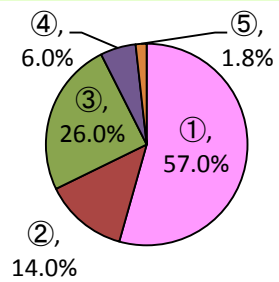
12/7名古屋 184枚



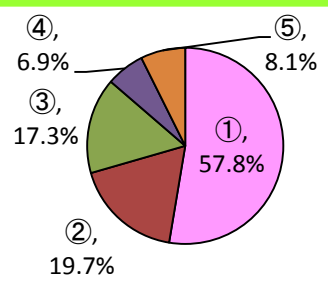
12/11福岡 239枚



12/14東京 435枚

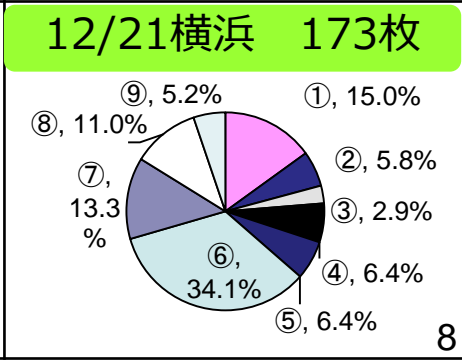
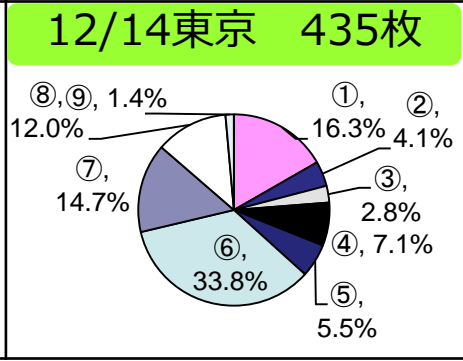
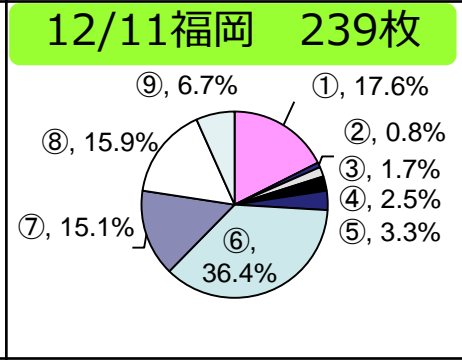
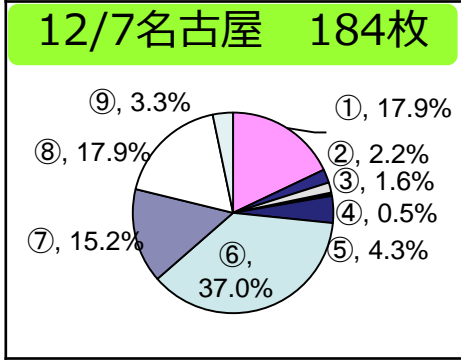
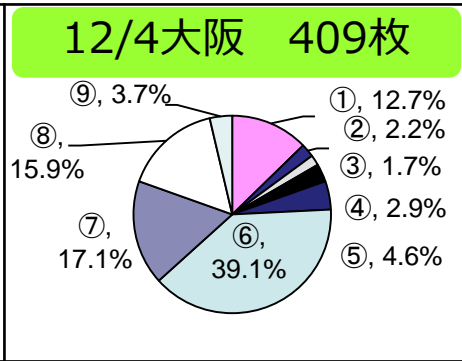
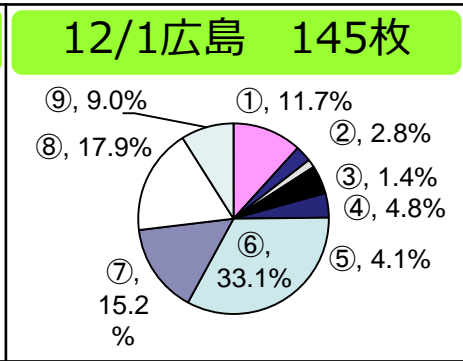
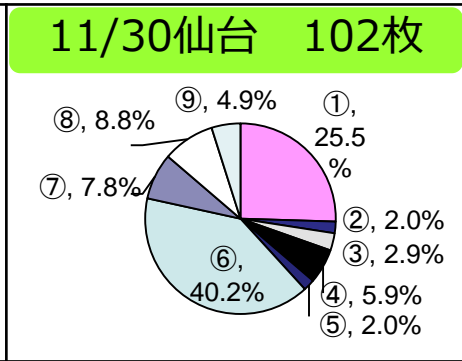
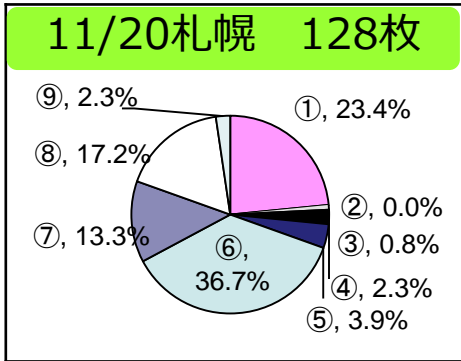
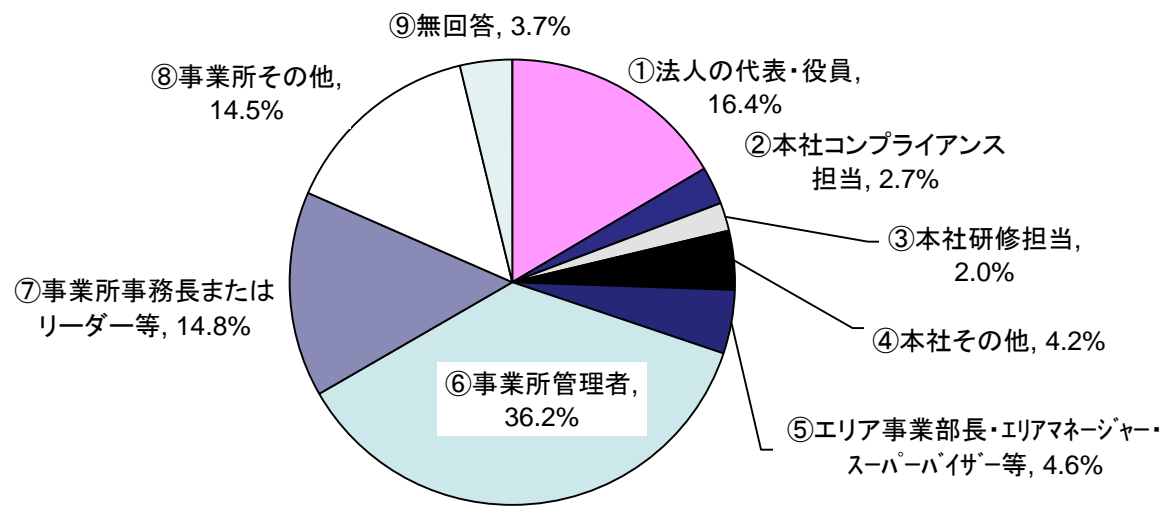


12/21横浜 173枚



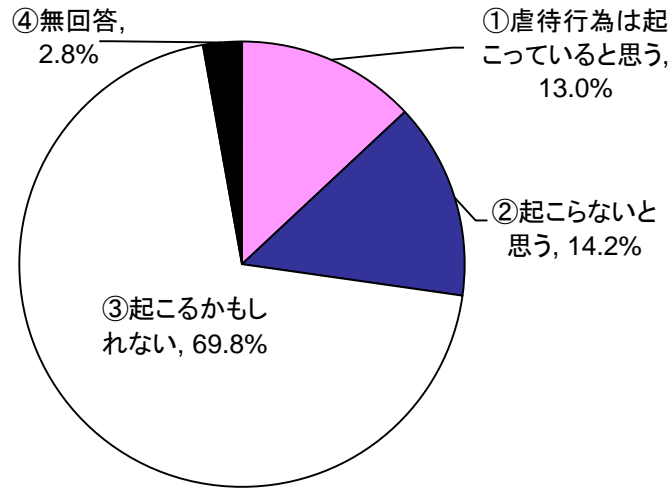
当日アンケート結果 ②参加者属性

全体 1815枚

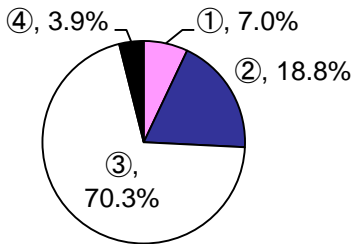


当日アンケート結果 ②虐待に関する現状認識

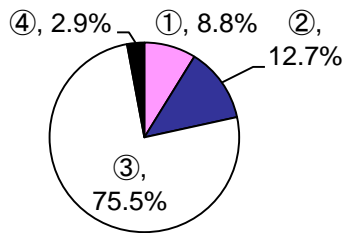
全体 1815枚



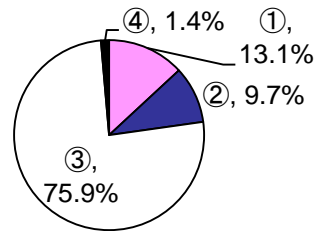
11/20札幌 128枚



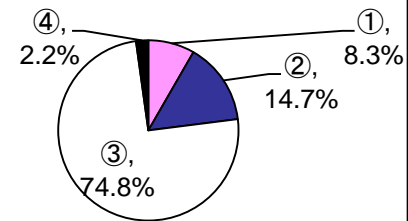
11/30仙台 102枚



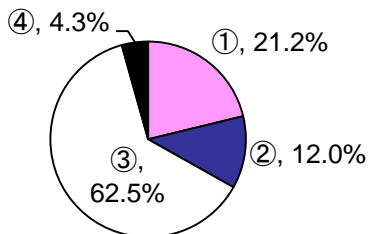
12/1広島 145枚



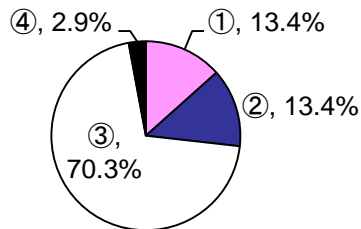
12/4大阪 409枚



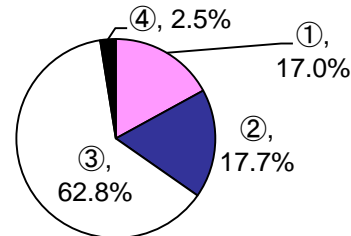
12/7名古屋 184枚



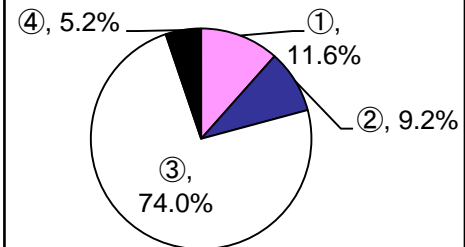
12/11福岡 239枚



12/14東京 435枚

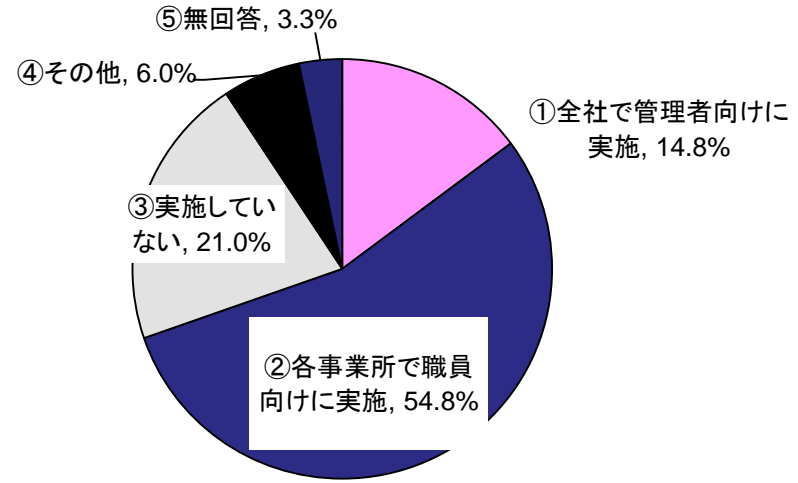


12/21横浜 173枚

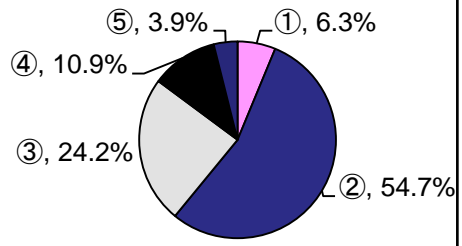


当日アンケート結果 ③過去1年の研修実施状況

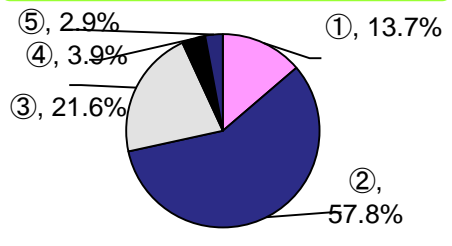
全体 1815枚



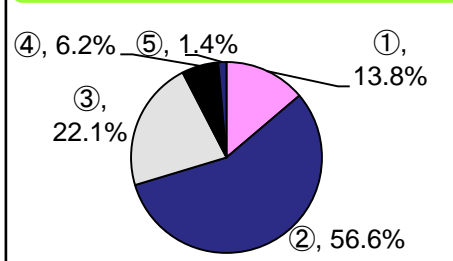
11/20札幌 128枚



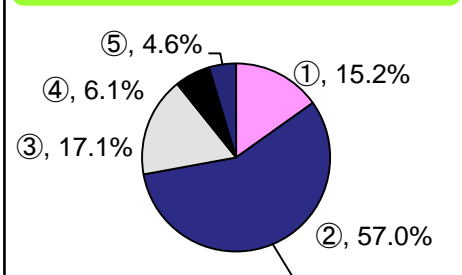
11/30仙台 102枚



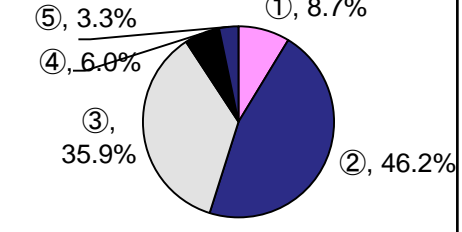
12/1広島 145枚



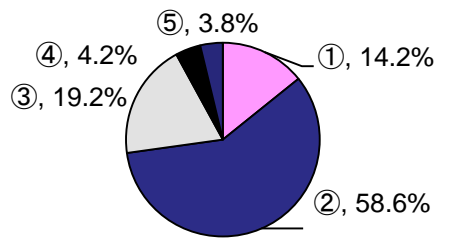
12/4大阪 409枚



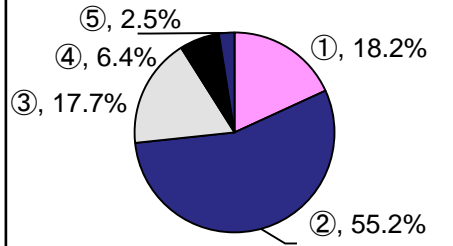
12/7名古屋 184枚



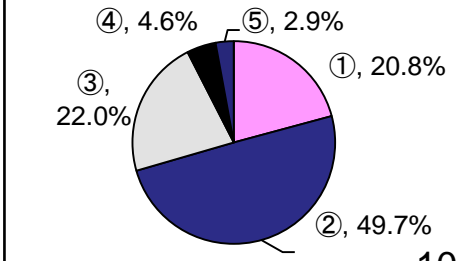
12/11福岡 239枚



12/14東京 435枚

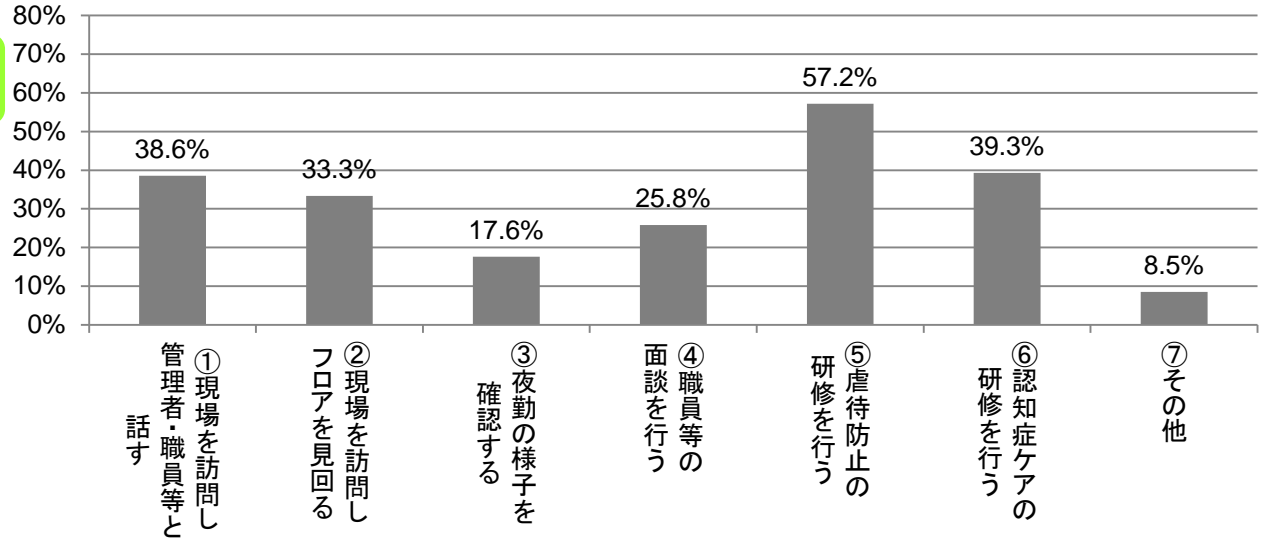


12/21横浜 173枚

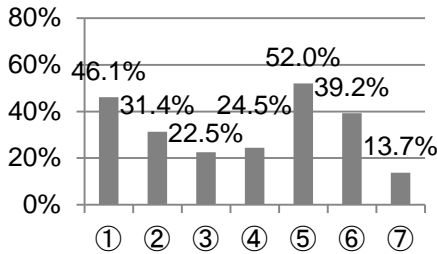


当日アンケート結果 ③研修後の明日からの行動

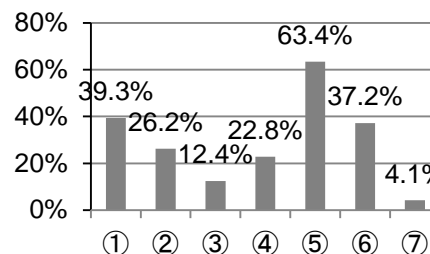
全体 1815枚



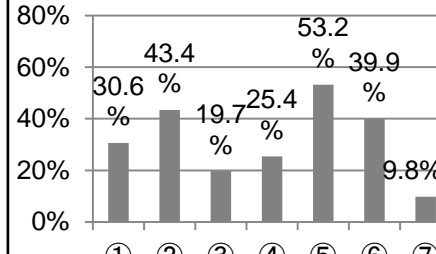
11/20札幌 128枚



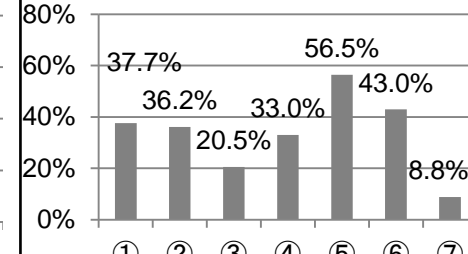
11/30仙台 102枚



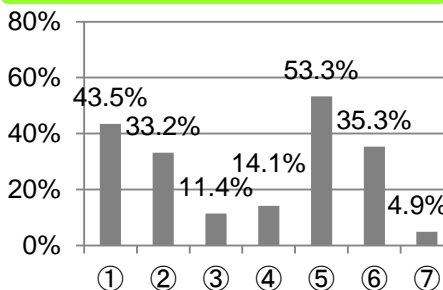
12/1広島 145枚



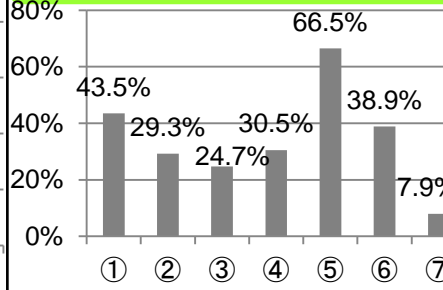
12/4大阪 409枚



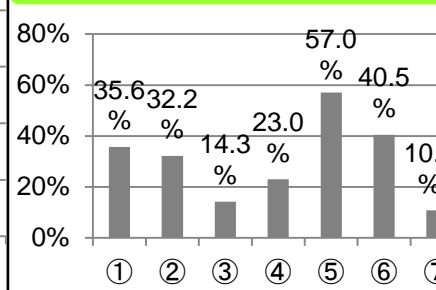
12/7名古屋 184枚



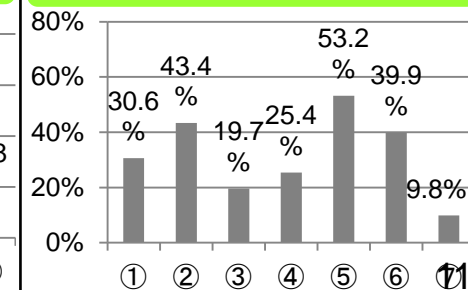
12/11福岡 239枚



12/14東京 435枚



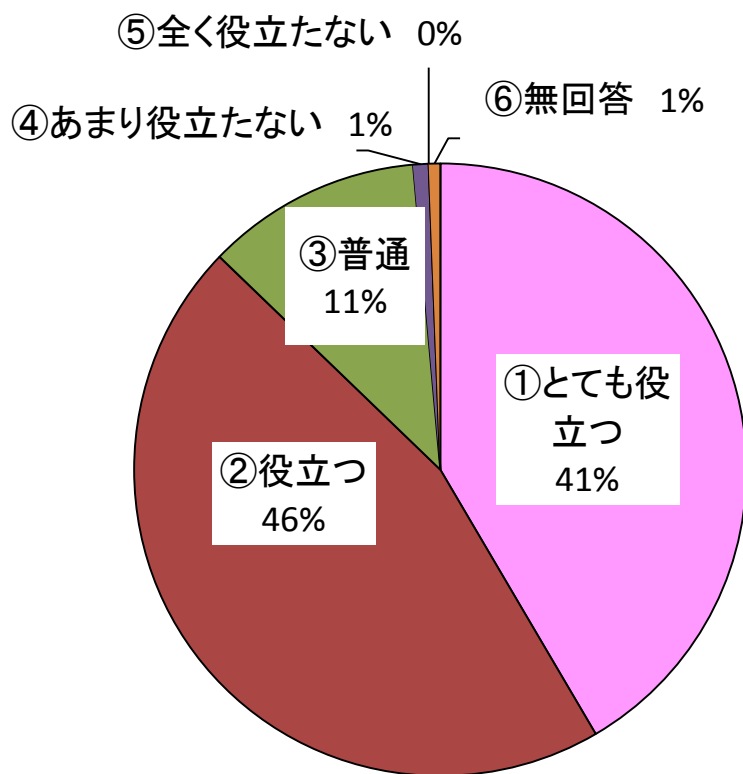
12/21横浜 173枚



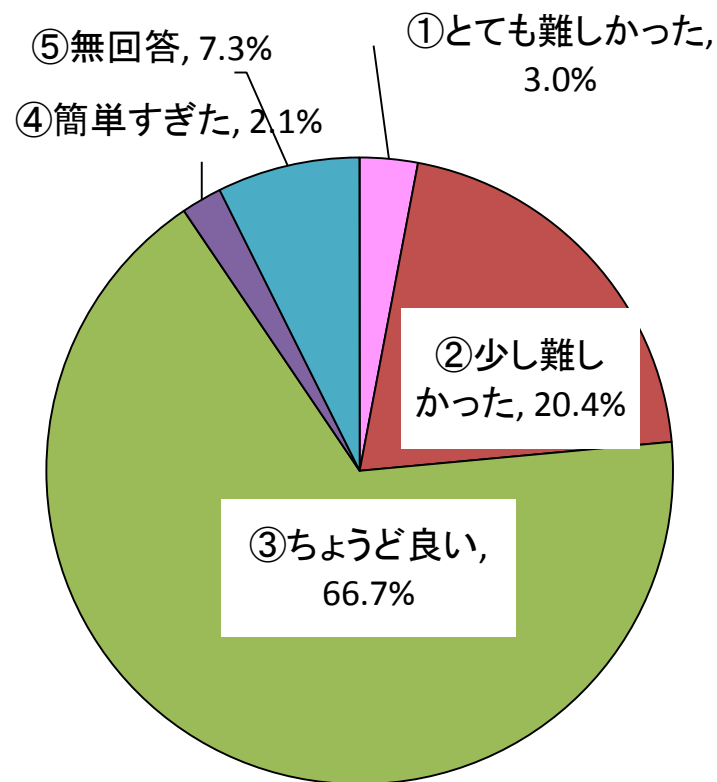
当日アンケート結果 ④講義の評価

講義1 虐待防止のための組織的取組み

【役立ち度】



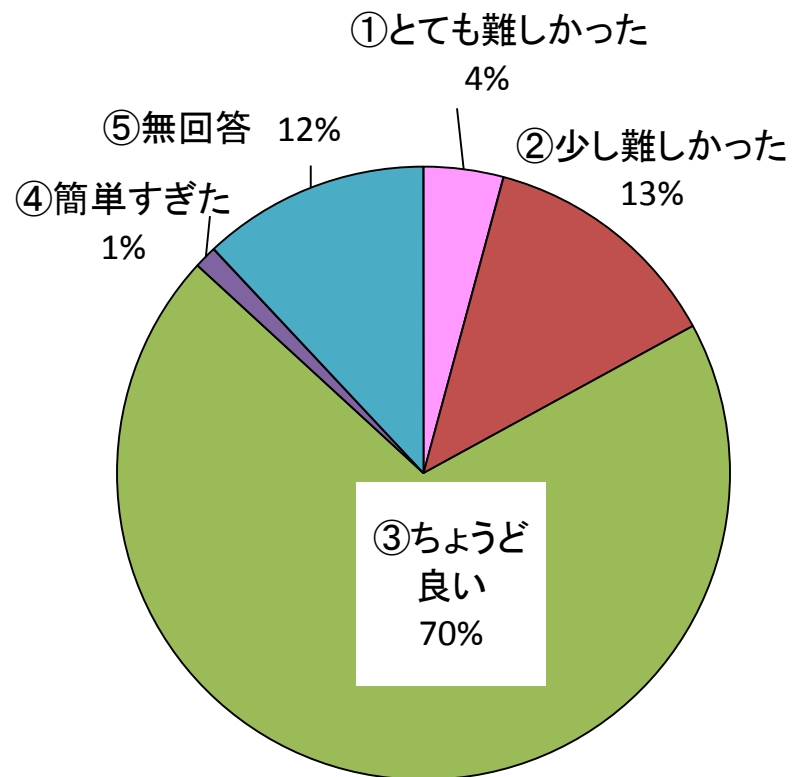
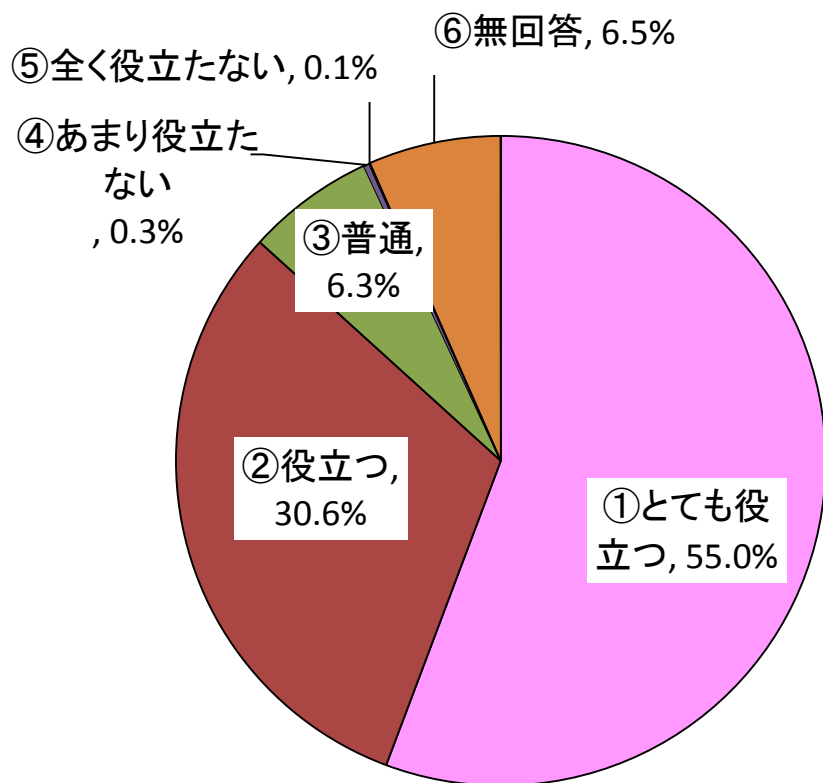
【難易度】



講義2 認知症ケアの組織的取組み

【役立ち度】

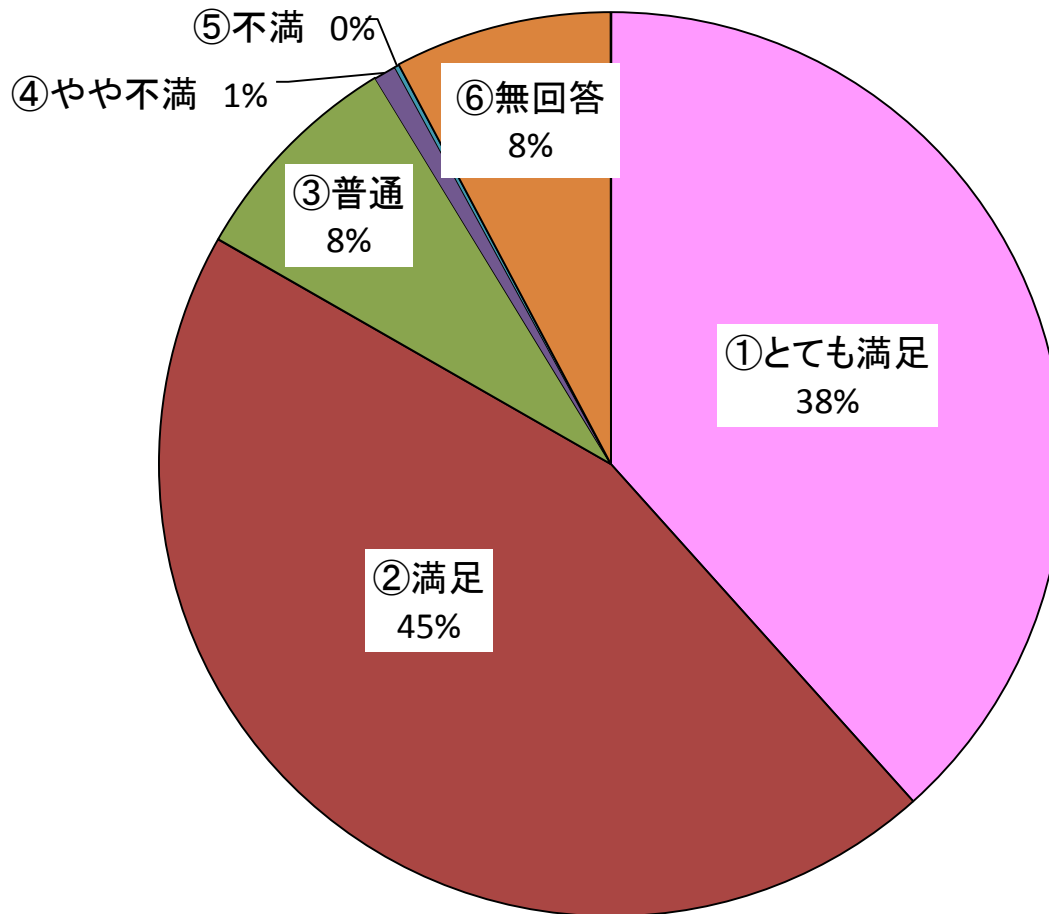
【難易度】



当日アンケート結果 ④講義の全体評価

全体 1815枚

【満足度】



当日アンケート結果 ⑤研修の意見・感想

	意見・感想
学んだこと	<ul style="list-style-type: none">□ <u>不適切ケアの積み重ねが虐待につながっていく点。高齢者虐待防止法が施設側が行ってはいないものの規定ではなく、高齢者の尊厳保持、権利利益の擁護する枠組であることを理解できた点は新しい学びでした。</u>□ <u>虐待の法律をかなり安易に考えており、反省させられました。経営層向けにやったのは有意義だったと思います。</u>□ <u>虐待にしろ、認知症ケアにしても、トップが率先して勉強して行く必要があると痛感しました。</u>□ <u>経営層が現場を訪問し管理者・リーダーに確認。防止のための取り組みが大事である。</u>□ <u>メンタルヘルス・リスクマネジメントの重要性を改めて考えさせられた。</u>□ <u>職員に対する教育の仕方が所々で具体例として挙げてもらって、とても参考になりました。チームとしてのあり方を考えるきっかけになりました。</u>□ <u>虐待が個人ではなく、組織全体の問題であるという点が強調されており、参考になった。</u>□ <u>個別に職員を研修に出しているが、施設全体としての研修会が行われていない(2年前に実施以降)、何が虐待なのか、そのグレイゾーンについて、職員自身が意識してもらおう事で防止につながると学んだ。同じく、認知症の方への支援方向・姿勢についても、管理者が正しい判断があつてこそ、現場をリードできる。じゃましてはいけない。</u>□ <u>組織的な認知症ケアが虐待防止につながるカギになると分かった。</u>□ <u>虐待をしてしまった個人だけが悪いのではなく、組織として虐待防止に取り組んでいくことが重要。スタッフには、業務に追われる環境から、本当の介護の楽しさ、やりがいを持ってもらえるように、考えていきたい。</u>□ <u>認知症を正しく理解することで、その方へのふさわしいケアが統一できれば、虐待をする必要は発生しない。ストレスフルな職場でいかにチームケアでストレスを軽減し合えるかだと思いました。</u>

当日アンケート結果 ⑤研修の意見・感想

	意見・感想
決意表明	<ul style="list-style-type: none">□ <u>虐待防止については今事業所で取り組む研修内容では不足していることがわかったことが大きい。</u>□ <u>今回学んだことを復習し、まずは管理者層と共有しながら、より良い内容を構築したい。</u>虐待や認知症について、わかっていると思っていましたが、わかっている事が沢山あったので、明日、施設へ行き研修を計画したいと思います。□ <u>自分だけではなく職場の職員と常に入居者様の事を話し合う(→お互いに注意しあう)。</u>入居者様になるべく出来る事はやっていただく。□ <u>虐待が起こらないよう会社全体を取り組んでいくこと、小さな事でも見逃さない姿勢を持っていくことの重要性を考えていくことを実施していきたい。</u>□ <u>職員が相談しやすい環境、施設全体で取り組む事が大切。</u>次回の研修会で職員へ話していきたいと思う。□ <u>部下を評価してほめる研修が必要だ</u>というお話を聞き、早速導入したいと思いました。どちらかという評価し、指摘することが多く、<u>リーダーの職員も、チームのスタッフをほめるということが足りなかったように</u>思います。早速やってみます。□ <u>先生自身、「認知症の方から料理を教わった」という話を聞き、人生の先輩であるという事の再認識をする事ができた。</u>この事をスタッフに対しても認識して貰う方法を考えていきたいと思う。□ <u>認知症ケアの事例について対処療法を行っているので改善していきたいと強く感じた。</u>□ <u>虐待をしてしまった個人だけが悪いのではなく、組織として虐待防止に取り組んでいくことが重要。</u>スタッフには、業務に追われる環境から、本当の介護の楽しさ、やりがいを持ってもらえるように、考えていきたい。□ <u>白・黒の判断は根拠が大切！自分の考え(法人の考え)をしっかり根拠づけてスタッフに伝えていきたい。</u>

当日アンケート結果 ⑤研修の意見・感想

	意見・感想
要望	<ul style="list-style-type: none">□ <u>具体的な事例やグループワーク等を取り入れ、現場の「生」の声をもっと聴きたい。</u>□ <u>研修参加対象者と研修内容が多少アンマッチなような気がする。講義1の後半(虐待の背景、防止の為の取組み等)について、もっと重点的に行った方が良かった。</u>□ <u>虐待について、もう少し具体的な内容が欲しかったです、組織として、どう対処するかとか(おきてしまった事に対して)</u>□ <u>虐待防止や認知症については様々な研修の中で勉強されている方が殆んどだと思います。出来れば組織として、どのように取り組んで行けば、防止出来るのか未然に防げるのか認知症のある方の生活や命が守れるのか職員のストレスをどうしたら軽減出来るのか具体的な方法やツールについて知りたかった。</u>□ <u>認知症の方々のBPSDに対するの対処方法をもっと聞きたかった。</u>□ <u>認知症と別にせず、組合わせての内容にしていただければ、良いと思いました。</u>□ <u>身体拘束に関する考え方、取りくみ方がよく理解できた、しかしもう少しサービス付高齢者住宅に対しての内容があってもよかったかと思う。</u>□ <u>休み時間をもう少しほしい、座学のみだと、眠くなりやすい、時間を小刻みに。</u>□ <u>行政は市町村によって見解がやや異なるため、地域ごとの特長をつかんだ規模のやや小さい研修をしてほしい。</u>□ <u>今後も行政と連携して、現場職員向け研修を増やしてほしい。</u>□ <u>ディスカッション出来る人数での研修希望。これからも社内研修に利用出来る資料の提供をお願いしたい。</u>□ <u>研修だけでなく、事業所で、皆で見ることが出来るDVD等があれば、いつでもミーティングをもつことが出来ると思う。資料がダウンロードできるのはとても便利。増えるとありがたい。</u>

当日アンケート結果 ⑥虐待防止の困りごと

虐待防止について、法人又は事業所で困っていること

教育面	<ul style="list-style-type: none">❑ <u>言葉の乱れが、虐待防止の初めだとの認識ですが、指導する場面で職員の人格否定でなく行っている行為が間違っているとの方法をとっているつもりですが、効果が思った程あがっていない。</u>❑ <u>スタッフの言葉づかいについて困っています。入居者様に仲良くしている事はすごく良いことですが、友人の様な話し方をしていることに困っています。友人のようにケンカのようなこともしている。</u>❑ <u>組織としてのストレスマネジメントの工夫、相談の内容や応待。</u>❑ <u>職員に対しての教育方法、理解のさせ方。</u>❑ <u>職員の離職・人材不足による職員のストレス負担が心配。</u>❑ <u>虐待につながりうる職員の言動に気付いていたとしても、それを指適し合えない風土、例えばそういう人が年配だったりベテランだったりすると言にくい、ということが発生した場合。</u>❑ <u>教育を現場レベルまで徹底させることが時間的に難しい。今回のテキストを用いて計画立てて進めようと思う。</u>❑ <u>虐待についての各スタッフやトップとの意識の違い。不適切ケアがあった場合の改善への取り組みと話し合いの進め方。スタッフの意欲を落とさないようにしたい。</u>
ケアの在り方	<ul style="list-style-type: none">❑ <u>不適切なケアについて、研修の度毎日の対応を見直すが、時間が経つと戻ってしまっているかも、をくりかえしている様に思います。</u>❑ <u>身体拘束をせざる得ない入居者の対応を今後どのようにしていくか。</u>❑ <u>人手不足から、「ちょっと待って」が当たり前になってしまってる所があり、それも虐待のグレーな部分だとすると・・・その場合、どう対応すれば良いのか。</u>❑ <u>人員不足にて職員がつかれきっている。自分も現場に入っている。</u>❑ <u>不適切な介護や言葉使い家族等への説明不足、連携不足等情報がきちんと伝わっていない事が多い、大きな問題に発展しないよう努力している。</u>

当日アンケート結果 ⑥虐待防止の困りごと

虐待防止について、法人又は事業所で困っていること

認知症ケア	<ul style="list-style-type: none">□ 入所され3ヶ月経過の女性利用者様が帰宅願望が病的な位に訴えがある。職員が疲れきっている状態も見られる、色々な原因要素については、<u>アセスメント再見直し等も行っているが、先生が話された対処型になっている。</u>□ 本日研修を参考とさせて頂き、利用者様が不安なく居場所のある生活の場となれる様努めていきたい。虐待に関して、関係する各事業所が行っているケアを振り返ってみて<u>グレーゾーンに当たるものがいくつかあることに気づいた。</u>グレーゾーンに当たる行為を白黒つけるための根拠を職員と話し合いたいと思いました。
家族の意思	<ul style="list-style-type: none">□ 本人の意志よりも、<u>家族の意志表示の方が強く、本人の立場に立って家族と話し合いを持っても、どうしても家族の意志が尊重されてしまう。</u>どう解決したらいいでしょうか。□ <u>家族の方から拘束した方が安全な為、身体拘束を希望される。</u>「施設では出来ません」と伝えるが、事故が起きた場合の責任はどうなるのか疑問。□ <u>ご家族が経済的虐待を行っている可能性がある。</u>